

新考古覧

準備室だより『新考古覧』No. 4

岡谷市教育委員会生涯学習課

岡谷市史編さん準備室 編集・発行

2023(令和5)年 10月

新考古覧：古い事柄を顧みて、新しい問題を考察すること
 ～岡谷の歴史を深く思い、岡谷の今を重ね、岡谷の未来が拓けるような市史をめざして～

シリーズ 岡谷市史下巻以降のおもなできごと ②市街地

広報誌などから旧市史(岡谷市史下巻 1982(昭和57)年刊行 編年:昭和20年～昭和53年)以降の岡谷市のできごとを中心に、テーマを設けてシリーズとして拾っていきます。今回は市街地関係です。



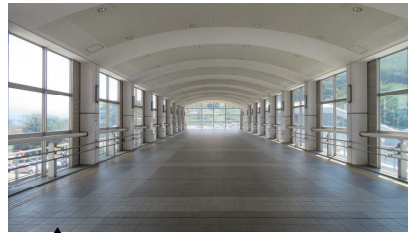
2023(令和5)年 市史編さん準備室撮影

西暦	元号	月	岡谷市のおもなできごと	その年の世の中のできごと
1984	昭和59	3	駅前市街地再開発事業が完了、ラオカヤがオープン	日本初の衛星放送始まる
1989	平成1	11	今井西土地区画整理事業が完了	横浜ベイブリッジ、幕張メッセ、葛西臨海水族園開通
1997	平成9	8	中央町市街地再開発事業が完了	日本サッカー 悲願のワールドカップへの出場決める
1998	平成10	11	中央通り1・2丁目プラザ「童画館通り」整備事業が完了	冬季長野オリンピック開催
1999	平成11	3	岡谷駅南北自由通路、中浦通線、駅前自転車駐車が完成	上信越自動車道が全線開通
2002	平成14	6	中央町再開発ビル(イルプラザ)がリニューアルオープン	小柴昌俊 元東京大学・東海大学教授ノーベル物理学賞受賞 田中耕一氏(東北大学名誉博士) ノーベル化学賞受賞
		11	長地山の手土地区画整備事業が完成	ベストセラー「ハリ・ポッター」と賢者の石「ほかシリーズ」全3作品
2007	平成19	9	駅南土地区画整備事業が完了	43年ぶりとなる全国学力調査実施



駅前再開発事業施工地区

出典:「岡谷駅前第一種市街地再開発事業完成記録」p.10
 1984(昭和59)年 岡谷市発行



↑ 岡谷駅南北自由通路内側



↑ 線路をまたぐ駅南北自由通路



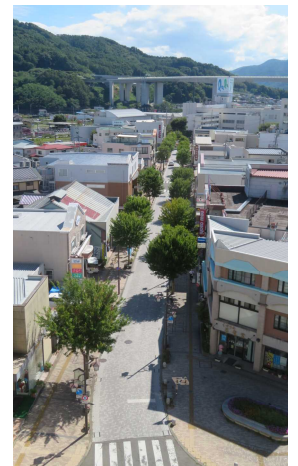
↑ 駅前自転車駐車場



長地山の手土地区画一帯と湖北トンネル



2002(平成14)年6月リニューアルオープンしたイルプラザ



現在の童画館通り

イルプラザ屋上から駅方面を望む

以上写真6枚: 2023(令和5)年 市史編さん準備室撮影

地図記号などをもとに昔と今を比べてみよう!



中央町再開発と童画館通り



1989(平成1)年 岡谷市全図(岡谷市発行) 1/25000 部分複写



2020(令和2)年 岡谷市都市計画基本図 1/2500 部分複写
童画館通り 0m 100m



再開発前の現イルフプラザ付近

<上写真・右上写真: 1986(昭和61)年撮影>

出典:「岡谷の今昔」昭和61年 岡谷市教育委員会編



交差点手前の水飲み場

再開発前の中央通り四つ角



現在の中央通り四つ角



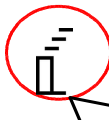
現在の立体駐車場と煙突

(駐車場東側から撮影)

<上カラー写真3枚: 2023(令和5)年 市史編さん準備室撮影>



「問」 イルフプラザと市営立体駐車場は、Before 地図のどのあたりに建てられたのでしょうか?





<ヒント> この地図記号に注目!
(左右の地図中の赤丸)

現在も立体駐車場の東側に立っているこの煙突は、再開発の様子を見続けてきたことでしょう。



地図記号ひとロメモ


Before地図にある工場の記号  は、平成25年図式の2.5万分の1地形図から使われなくなりました。また、同じ地図に記号  がみえますが、電報・電話局です。Telephone&Telegramの頭文字を図案化しています。昭和60年、日本電信電話公社が民営化されたことにより、昭和61年図式以降の国土地理院発行の地図から、この記号はなくなりました。地図記号は時代とともに変わっていきます。記号の由来や変化の背景を紐解くのも興味深いものです。

コラム

「長野県自動式交換局誕生の地」



2023(令和5)年
市史編さん準備室撮影

Before地図  の場所には、かつてNTT東日本岡谷電話交換所がありました。現在、玄関脇の植え込みに記念碑があります。昭和9年7月29日県内最初の自動交換機(ストロージャ式)が平野村に開設されたことを記念して、昭和51年、岡谷電話会によって建てられたものです。昭和9年当時は世界恐慌による苦しい不況のなか、工業の多角化と市制施行にむけて動いていた時代でした。製糸業の盛衰が偲ばれます。